

2023年度 長崎県支部 第9回オンライン交流会 報告

日時:2023年12月11日(土)13:00~14:00

参加者:患者さん2名、支援者4名(顧問2名、福祉機器業者1名、ヘルパー1名)

支部役員8名 計13名

1)離島の患者さんのコミュニケーション支援について(視線入力が難しくなった患者さんの支援)

視線入力によるコミュニケーションがうまくできなくなった患者さんの相談についての話し合いは、今回で3回目。今回までの相談内容をまとめてみる。

(1)患者さんの身体的状況

- ・Zoomで患者さんの目の動きを見る限り、眼振などの問題は見られない。
- ・パソコンは、視線入力を使えなくなり、親指で、操作していたが、タッチセンサーには、かなりの力を必要としている様子であった。

<交流会で話し合ったこと>

- ・空気圧で力を入れることなく操作できるタッチセンサーなど、石松先生の手作りのセンサーもある。しかし、視線入力ができれば、患者さんにとっては、一番よいと考える。
- ・機器と視線の両面から、検討する必要がある。

(2)コミュニケーション機器について

- ・コミュニケーション機器を導入した業者は、他県のU社で離島まで出向いての対応は難しい。
- ・患者さん本人が、U社にメールで相談したところ、パソコンの耐用年数的には大丈夫だが、アイトラッカーは、涙が出ると作動しないので、涙を拭いてから使用するようこのメールが届いた。

<交流会で話し合ったこと>

- ・患者さん以外の方が機器を使って作動できれば、患者さんの涙が問題かもしれないが、誰が試しても作動しなければ、機器の問題である。しかし、患者さんに関わる支援者は、患者さんの機器の操作がわからない状況だった。
- ・定期的に離島のI病院に来ている業者に相談して直接、患者さんの様子を視てもらうことが一番いいのではないか。
- ・機器は、補装具として導入しているので無料でメンテナンスできる。また、5年に1回はフル交換できる。
- ・身体障害者手帳で、申請していると思うので、I市の障害福祉関係の窓口相談してみようか。
- ・日常生活用具で、年間10万円の限度額でタッチセンサーは購入可能。光センサースイッチといって、スイッチの本体から赤外線が出ていて、一定の距離を決めて、少しでも遠ざかったり、近づいたりすればスイッチが入るものもある。夜寝る時に、伊達メガネにスイッチをつけて、ウインクしたりして、筋肉の動きでスイッチングするものもある。
- ・まずは、定期的に離島に来ている補装具制作業者や市の障害福祉関係の窓口相談してみることが必要である。

<支部が支援したこと>

・患者さんやご家族への助言

かかりつけの病院のリハビリスタッフに相談して、医療的な視点と機器的な視点からサポートしてもらえるように頼んでみるように伝えた。

機器については、F県のA業者が、離島のI病院に毎月来ているので、相談してみることを勧めた。

・F県のA業者への相談

患者さんの状況について伝えたが、この業者は、コミュニケーション関係の機器は取り扱っていな

かった。業者は、I 市の障害福祉関係の窓口にご相談してみるか、更生相談所に相談してみることを勧めてくれた。

<その後の患者さんの状況>

ご家族から電話があり、かかりつけの病院のリハビリスタッフに相談し、コミュニケーション機器の問題は、解決したとのこと。今後も、まずは、リハビリスタッフに相談して対処法を相談することを勧めた。

<今回の相談を振り返って>

今回の離島の患者さんの相談は、直接お会いできない中での相談対応であり、難しい側面もあったが、いろいろな方が関わることで解決策が見い出せた。最も大切なことは、何とか現在の状況を解決したいという患者さんの強い思いと、その思いに応えようとするご家族や支援者の思いがあって、はじめて達成されたと考える。今後も患者さんやご家族の思いに寄り添った支援を心がけていきたい。

2) フリートキング(患者さんの自己紹介と Q&A)

今回は、2 人の患者さんの積極的な活動についてのお話を聴くことができた。

山口さん: 重度訪問介護というサービスを使って、24 時間介助者のサポートを受けながら、今は一人ぐらしをしています。でもなかなか重度訪問介護という制度が知られていなかったり、知られていたとしてもそのサービスを提供してくれる事業所がなかったり、いろいろな問題があり、まだまだこの制度が浸透していないという現状があります。私の今の生活を作るまでにどういうことをしてきたかという経験をお伝えできると思うので、困っていることなどある方がいらっしゃったら、私のことをご紹介いただけたら、何か力になれるかなあと思っているのでもよろしくお願ひします。来月講演会を開催するので、よかったですら参加してください。(山口さんの講演会については、長崎県支部 HP に詳しく掲載しています。)

<山口さんとの Q&A>

Q: ヘルパーさんとの意思疎通を確立するために、どれくらいの期間を要していますか？

A: 人によって様々ですが、日常会話程度だったら、1 ヶ月程度でできるようになります。

Q: 主に口の動きを読み取るような感じなんですか？

A: 口の動きと少しだけ声が出るので、その 2 つを読み取って通訳してもらっています。あとは、ずっと一緒に過ごしていると、自分が伝えたい事がわかるようになってきます。

Q: 予測変換みたいな感じで通訳ができるんですね。

A: そういう時もあります。

Q: お若いヘルパーさんが多いんですか？

A: うちの 30 歳代がほとんどです。家族よりヘルパーの方の聞き取りが上手です。

奥村さん: 電動ベッドを使用しています。パラマウント社のもので、ソフトを入れて、私の空気圧の装置でも動くようにもできるし、声でも指示できるものを使っています。夜中にちょっと足を上げたり、そういう操作ができると膝の痺れとかが軽減できます。手動で動かす場合は、上限の角度を設定できるので、常に顔の前にアイパットがあるので、私の場合は、上限 6 度にしてあります。足は 30 度にしてあります。30 度まで上げ下げしてストレッチ代わりにあります。

<奥村さんとの Q&A>

Q: 電動ベッドは、妹さんの介護負担の軽減にもなりますね。

A: 私も楽になります。翌朝が楽です。

Q: 自分が思った時に思ったように操作ができるというのは、身体的な痛みもですが、心理的にも随分楽になるのかなあとお話を伺いながら感じました。いつでも変えられるというのはいいですね。活用して、妹さんの介護負担ばかりでなく、自らリラックスして生活ができるようにしてください。

その他に、今回は、奥村さんの声量の変化に参加者全員びっくりして、その理由をお尋ねしました。
奥村さん:カラオケで歌うようになって、声が出るようになり、話し声もはっきりしてきました。家族を呼ぶ時も機器を使わなくもよくなりました。カラオケ効果だと思います。

角町先生(歯科医師):奥村さんの口の動きを見てカラオケ効果が感じられました。

松本さん(ご遺族):奥村さんをお誘いし、いつか奥村さんとデュエットができればと願っています。声量がどんどん上がっているのに驚いています。私の YouTube にも、いつもコメントをいただいています。



3) 女声アンサンブル NOA と石松先生の動画のミニコンサートとリクエスト曲

今回は、クリスマスが近いので女声アンサンブル NOA と石松先生の動画で、「きよしこの夜」の美しい澄んだ歌声と素敵な動画を楽しみました。毎回、ミニコンサートを楽しみにしているとおっしゃる中西先生から、「今日も心が癒されました。」との感想をいただきました。

また、奥村さんのリクエストで、松本さんの「What a Wonderful world」の歌を楽しみました。

今回、映像が見えなかったのですが、次回、再度、お楽しみいただきたいと思います。

以上 (記録: 森本)

